

世田谷区 不登校経験者による多様な進路交流会
2024.11.04@三茶しゃれなあとホール

多様な都立高校

東京都立中野特別支援学校
センター的機能スーパーバイザー (CSV)
瓦田 尚

本日のテーマ

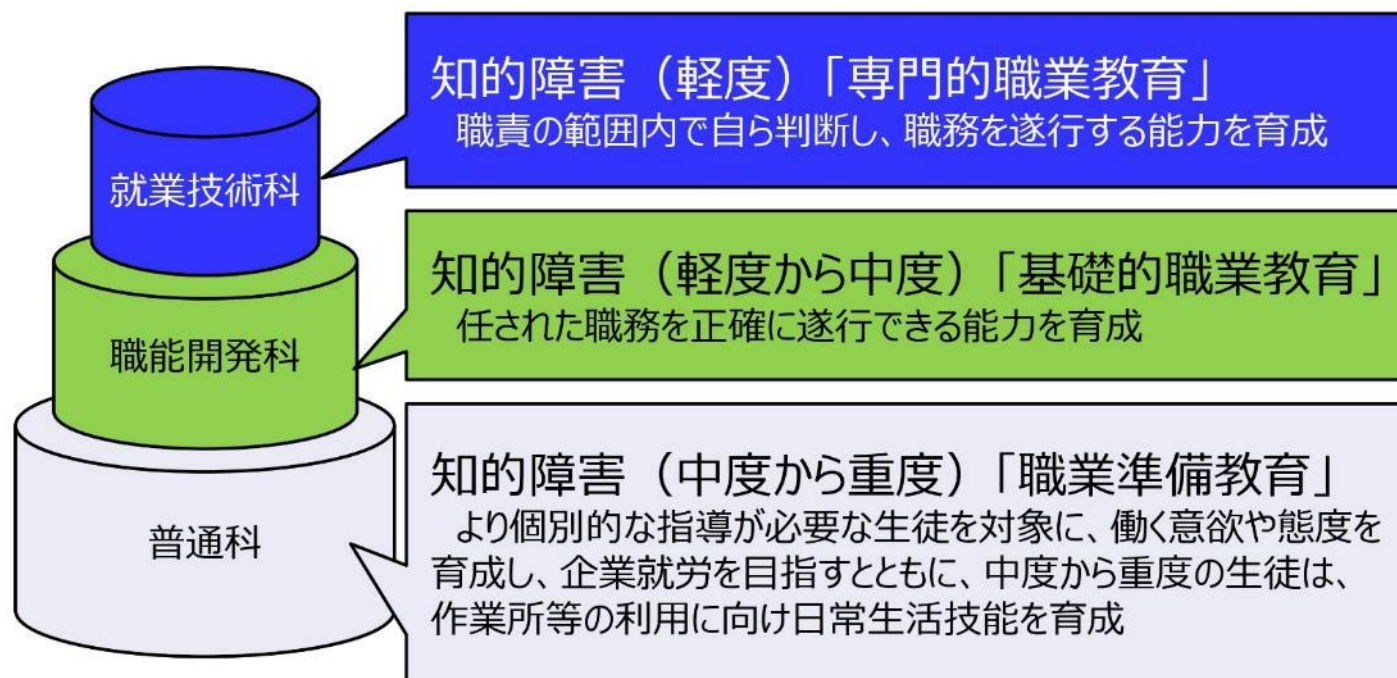
- ▶ 多様な都立学校
- ▶ 都立高校の発達障害教育
- ▶ わたしの「高校」観
- ▶ よりよい進路選択のために

都立特別支援学校職業学科について

▶ https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/admission/special_needs_school/exam/inform/exam_guide_r6.html

都立知的障害特別支援学校における重層的な職業教育の展開

◎ 社会に参加・貢献できる人材の育成を目指します。



さまざまな都立高校

令和7年度

東京都立高等学校に
入学を希望する皆さんへ

課程

- 1 全日制課程・・・朝から午後までの日中に授業があります。
- 2 定時制課程・・・夜間、その他定められた時間帯に授業があります。
- 3 通信制課程・・・自宅等で学習し、レポートなどの添削指導を受けながら、定められた日(月2日程度)に登校し、面接指導を受けます。

学年制と単位制

- 1 学年制・・・学習する教科・科目が、学年ごとに定められており、その学習成果が認められると単位が与えられ、次の学年に進級する制度です。全日制は3年、定時制は4年(一部は3年)を修了すると、卒業が認められます。
- 2 単位制・・・学年の区別がなく、3年間(又は4年間)の中で必修(必履修)科目の他に自分に適した教科・科目を選択し、その学習成果が認められ、入学から卒業までに決められた単位数を修得すれば卒業できる制度です。



エンカレッジスクール(全日制)

Q:「エンカレッジスクール」とは、どのような学校ですか？

A:エンカレッジ(encourage)とは、「励ます」、「力づける」を意味します。小・中学校で十分能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張りを励まし、応援しながら、勉強や学校行事・部活動などを通して学校生活を充実させる全日制の高校です。

Q:「エンカレッジスクール」には、どのような特色がありますか？

A:○生徒一人ひとりにきめ細かい指導を行うために、二人担任制を導入しています。

○1年次には、30分授業を実施し、午前中は座学、午後は体験学習及び選択授業が中心となるように、時間割編成を工夫し、生徒の集中力を維持し、向上させます。

○「個に応じた指導と分かる授業の確立」を目指し、少人数制・習熟度別授業を導入しています。

○1年生から3年生まで、各学年1単位時間は、キャリアガイダンスの授業を行い、職業観を育てます。また、人としての在り方・生き方などを3年間通して学び、規律正しい生活を重視することで、生徒の意欲と生きる力を育む教育を行います。

○多くの人との出会いにより、自らを律し、他者と協調し、他者を思いやる心など、豊かな人間性を育むため、体験学習を重視しています。

○ものづくりや資格取得など、自分の興味・関心に応じた専門的な学習ができるよう、工科高校も指定しています。

エンカレッジスクール(つづき)

☆エンカレッジスクールの特色☆

<学校の特色>	<授業の特色>	<時間割の特色>
◎学力検査によらない入試 ◎二人の担任できめ細かな指導 ◎試験の点数よりも努力を評価	◎1年次には、集中できる30分授業により、基礎・基本を徹底 ◎少人数制・習熟度別授業によるきめ細かく分かる授業	◎キャリアガイダンス ◎選択授業 ◎多彩な体験学習

《エンカレッジスクール一覧》

- 蒲田高校
- 中野工科高校
- 練馬工科高校
- 足立東高校
- 東村山高校
- 秋留台高校

★調査書の提出あり。入学者選抜は小論文・作文、実技検査、面接などを実施。

チャレンジスクール(定時制)

Q:「チャレンジスクール」とは、どのような学校ですか？

A:○チャレンジスクールは、主に小・中学校で不登校の経験があったり、高校で中途退学を経験したりして、これまで能力や適性を十分に生かしきれなかった生徒が、自分の目標を見付け、それに向かってチャレンジする高校です。

○昼夜間の定時制・総合学科・単位制の高校です。自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて各時間帯(午前・午後・夜間の三部)を選んで入学できます。

Q:「チャレンジスクール」には、どのような特色がありますか？

A:○4年間かけて学ぶことを基本としますが、他部の科目の履修等により、3年間での卒業も可能です。

○国語、数学、英語等では「わかる国語」といった基礎科目を開設し、少人数のきめ細かい指導を通して、基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、中学校の復習にも対応します。

○体験的な学習を重視し、ボランティア、福祉活動等を授業の一環として行います。

○社会生活のルールやマナー、言葉遣いなどに関する学習も行い、コミュニケーション能力や社会性を育てます。

○ホームルーム活動や相談活動を重視し、先生と生徒の触れ合いや生徒同士の交流を大切にします。

チャレンジスクール(つづき)

☆チャレンジスクールの特色☆

- ・学力検査や中学校からの調査書によらず、生徒の学習や学校生活への意欲を重視した入試を行います。
- ・基礎・基本を重視した学習を行うとともに、総合学科の特性を生かし、職業系を含めいろいろな専門科目を設置しています。
- ・ボランティア活動などの体験的な活動を通じて、豊かな人間性を育成します。
- ・カウンセリングや教育相談の充実など、心のケアに配慮したきめ細かい指導を行います。

《チャレンジスクール一覧》

- 六本木高校
- 大江戸高校
- 世田谷泉高校
- 稔ヶ丘高校
- 桐ヶ丘高校
- 小台橋高校
- 立川地区チャレンジスクール(仮称)(令和7年4月に開校予定)

名称は「立川緑高校」に決定！

★志願申告書の提出あり。入学者選抜は作文、面接を実施。

昼夜間定時制高校

Q:「昼夜間定時制高校」とは、どのような学校ですか？

A: 昼夜間定時制高校は、自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて、午前・午後・夜間の三つの部の中から選んで入学する定時制・単位制・三部制の普通科高校です(新宿山吹高校は四部制で、情報科も設置しています。)

Q:「昼夜間定時制高校」には、どのような特色がありますか？

A: ○ホームルーム活動を重視するなど、学年制のよさを残しており、また、職業に関する専門科目を設置するなど、総合学科の特徴も取り入れています。

○基礎・基本を重視し、習熟度別授業や少人数授業など、多様な授業形態を取り入れています。

○修業年限は4年を基本としていますが、他部の科目の履修や学校外での学習活動等により、3年で卒業することも可能とする「三修制」を実施しています。

○学校外での学修の成果を単位認定するなど、単位認定の弾力化を図っています。

授業時間帯などの例

部	時 限	時 間 帯	I部の生徒	II部の生徒	III部の生徒
I部	1限	8:50 ∪ 12:25 (午前)	必修科目 & 選択科目	選択科目	
	2限			↑	
	3限				
	4限				
II部	5限	13:10 ∪ 16:45 (午後)	↓ 選択科目	必修科目 & 選択科目	選択科目
	6限			↑	
	7限				
	8限				
III部	9限	17:20 ∪ 21:10 (夜間)	※III部には学校給食が あります。		必修科目 & 選択科目
	10限				
	11限				
	12限				

昼夜間定時制（つづき）

☆昼夜間定時制高校の特色☆

- ・ I 部（午前部）・ II 部（午後部）・ III 部（夜間部）の中から自分の所属する部を選び、1日4時限ずつ4年間かけて学ぶことが基本ですが、他の部と合わせて1日に6時限の授業を受けられるため、3年で卒業することもできます。
- ・ 単位制なので、学習の進み具合に合わせて学習計画が立てられます。
- ・ 1学級30人で、習熟度別授業も行いますので、きめ細かい指導が受けられます。
- ・ デザイン、ビジネス、ファッション等の特色ある科目を選択して学ぶことができます。

《昼夜間定時制高校一覧》

○一橋高校※ ○新宿山吹高校※ ○浅草高校 ○荻窪高校 ○八王子拓真高校 ○砂川高校※

※一橋高校、新宿山吹高校及び砂川高校では、併設している通信制課程との併修もできます。

★荻窪高校は他の部の授業と合わせて3年で卒業することは不可。

★特色ある科目の設置は学校によって異なる。

夜間定時制

- ▶ 全日制と校舎を併用
- ▶ 1クラス定員(30名)に満たないことも多い
- ▶ 二次募集、三次募集など何度も入学の機会がある
- ▶ 少人数のきめ細かい指導、落ち着いた学校生活

高等学校

定時制課程

学年制(夜間)

普通科

大崎、小山台、大森、桜町、松原、豊島、大山
足立、南葛飾、葛飾商業、江戸川、葛西南
農業、神代、町田、福生、五日市、大島、八丈

農業

園芸、農芸、農産、農業

工業

工芸、蔵前工科、墨田工科、総合工科、中野工科
荒川工科、北豊島工科、本所工科、小金井工科

商業

第三商業、足立、葛飾商業、第五商業

併合科

瑞穂農芸(普通・農業)

産業科

橘

単位制

昼夜間

普通科

一橋、新宿山吹、浅草、荻窪、八王子拓真、砂川

情報

新宿山吹

総合学科(チャレンジスクール)

六本木、大江戸、世田谷泉、稔ヶ丘、桐ヶ丘、小台橋
立川地区チャレンジスクール(仮称)

夜間

普通科

六郷工科、飛鳥、板橋有徳

工業

六郷工科

総合学科

青梅総合、東久留米総合

通信制

- ▶ 都立通信制は一橋／新宿山吹／砂川
- ▶ 自学自習を基本とし、土曜日のスクーリングに通学
- ▶ WEB学習コースによりスクーリングが減る場合も
- ▶ 私立の通信制／サポート校のように「通学型」はない

入学者選抜に関するまとめ

	エンカレッジ	チャレンジ	昼夜間定時制	夜間定時制	通信制
調査書	あり	なし	あり	あり	あり
検査方法	小論文または作文、実技検査（学校による）、面接	志願申告書（事前作成）作文、面接	学力検査、面接	学力検査、面接	学力検査、面接
推薦入試	あり	なし	なし（新宿山吹情報科のみあり）	なし	なし
一般入試日程	分割前期・後期	第一次募集のみ	分割前期・後期（新宿山吹は後期無し）	第一次、定時制第二次（3月末）、三次以降は年度明け	4月上旬

都立高校の取り組み

- ▶ #だから都立高
- ▶ <https://www.toritsuko.metro.tokyo.lg.jp/>
- ▶ 都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム → II 生徒目線に立った支援の充実
- ▶ https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/administration/action_and_budget/plan/reformation/release20240328_03.html
- ▶ 都立高校におけるチャレンジサポートプラン
- ▶ https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/administration/action_and_budget/plan/reformation/files/highschool_challenge_support_plan/2_honbun.pdf

都立高校における発達障害教育の手引き ～誰一人取り残さない学校づくり～

▶（「はじめに」より）

（前略）こうした取組の中、令和6年1月1日現在で約160人の生徒が通級による指導を受けています。令和3年度に東京都教育委員会が都立高等学校・都立中等教育学校を対象に実施した調査では、全日制課程及び定時制課程の学校に在籍する発達障害の可能性のある生徒は4,400人、在籍率で換算すると3.4%という回答結果が得られました。どの学校、どの学年、どの学級にも特別な支援を必要とする生徒が在籍するという認識に立ち、各校が生徒一人一人に応じた発達障害教育の推進を図っていく必要があります。この度、発達障害のある生徒を支援するための校内体制作りや通級による指導の開始に向けた手順等を手引きとしてまとめました。各校での、誰一人取り残さない学校づくりの推進にお役立ていただきますようお願いいたします。

都立高校における発達障害教育の手引き
～誰一人取り残さない学校づくり～

令和6年2月（第一版）

教育庁都立学校教育部特別支援教育課
発達障害教育推進担当



発達障害による困難さに応じた支援レベルのイメージ

発達障害による
困難さのレベル

高
↑

支援
レベル
3

支援レベル
2

支援レベル
1

↓
低

支援の必要がない生徒

③ 通級による指導

生徒の困難さに応じた、一部特別な指導を実施

- ・本人が希望すれば必ず受けられるものではない。
(本人の希望、障害等の要件が合致する必要あり)
- ・障害があれば必ず実施しなければならないものではない。

② 学校内外の人的資源の活用

SC、YSW、臨床発達心理士等、学校内外の人的資源の活用による通常の学級での支援

① 通常の授業中の支援

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教室環境や授業づくり、指導の工夫や配慮などによる支援

※ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教室環境や授業づくりは、全ての生徒にとって有効です。

都立高校の 通級による指導

通級による指導とは？

大部分の授業を通常の学級で受けながら、一部の授業について障害に応じた特別の指導を受ける指導形態です。都内公立小・中学校では、「特別支援教室」として全校に導入されています（自治体によっては「特別支援教室」とは別に愛称等をつけている場合があります）。

- 周囲の人たちとうまく関係をつくっていきたい
- 感情を自分でコントロールできるようになりたい
- ちゃんとスケジュール管理ができるようになりたい

生徒の困っていることを
改善するための授業です

自分の困っていることを改善したい!と思ったら、まずは学校の先生に相談してみましょう



寄り添ってくれる人がいる。
支えてくれる学校がある。

通級による指導に関するお問合せはこちら

東京都教育庁 都立学校教育部
特別支援教育課 発達障害教育推進担当

☎ 03-5320-7838

こちらも

コミュニケーションアシスト講座

都立高校の生徒がソーシャルスキルやコミュニケーションなど、学校生活で役立つスキルを学ぶための講座です。（土曜日や夏休みに学校以外の会場で実施する講座で、在籍校の教育課程には含まれません。）
詳細は、東京都教育委員会のホームページをご確認ください。



コミュニケーションアシスト講座

東京都教育委員会

詳細は裏面へ→

Q1



通級による指導では
どのような内容を学ぶのですか？

「人と上手にコミュニケーションができるようになりたい」「感情のコントロールができるようになりたい」「スケジュールや自己管理の方法を身に付けたい」など、生徒が困っていることに応じて、以下の例のように困っていることを改善・克服できるような内容を学びます。

（指導例）

- 相手の気持ちを気にかけずに発言するため、友人を怒らせてしまうことが多い生徒に、怒らせてしまった時の会話を書き出して可視化し、相手の気持ちを想像させる指導を行いました。これにより、相手の気持ちを理解して発言しようとするようになりました。
- 提出物や約束を忘れることが多い生徒に対し、スケジュール管理ソフトを用いて、期日等の優先度に応じた色分けや、リマインド機能を活用するなどの指導を行いました。これにより、提出忘れが減り、約束を忘れることも少なくなりました。

Q2



通級による指導は
どこで、誰が教えてくれるのですか？

自分が在籍している都立高校で、在籍校の先生と専門的な知識やノウハウのある支援員によるチームティーチング形式などの指導が受けられます。



Q3



通級による指導を受けたら
単位認定されますか？

各学校で、対象の生徒の個別指導計画などに、通級による指導の目標を定め、十分にその目標が達成できたと校長が判断した場合に、単位を認定します。

Q4



通級による指導を受けたことで
進学や就職に不利になりますか？

不利になることはありません。通級による指導により、進学先や就職先で必要なスキルや、サポートしてほしい時に支援を依頼できる力などを身に付けられるようにします。

Q5



通級による指導以外に受けられる支援は
ありますか？

授業での個別の配慮や教室のユニバーサルデザイン化による学びやすい環境づくりなどが考えられます。また、「コミュニケーションアシスト講座」（表面をご参照ください）もあります。

自分が困っていると感じていることをよく先生に話してみましょう。どのような支援ができるか、先生が相談に乗ってくれます。

対象生徒について

以下の①～③を全て満たす生徒（④・⑤は小・中学校特別支援教室と同じ）

- ① 都立高校又は都立中等教育学校後期課程に在籍する生徒
※全日制・定時制・通信制や、学科は問いません
- ② 知的障害がなく、発達障害等（自閉症、情緒障害、学習障害、注意欠陥多動性障害）があり、通常の授業におおむね参加でき、一部、障害に応じた特別な指導を必要とする生徒
- ③ 生徒本人と保護者が通級による指導を希望し、かつ、学校及び都教育委員会に指導が必要であると認められた生徒

障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服することを目的とした指導[※]を行うものであり、教科の補習など、学習の遅れを取り戻すことを目的とした指導は行いません。

※特別支援学校高等部学習指導要領の「自立活動」の内容を参考とした指導



特別支援教室や通級による指導などで指導を受けたことがある お子さまの保護者の皆様へ

お子さまのこれまでの支援などの状況を 進学先の都立高校にお伝えください

中学校で受けてきた特別な支援やご家庭での支援の状況などについて、進学先の都立高校にお知らせいただくことで、進学後の学校と一緒に授業での工夫などを検討できます。



高校段階では、進学や就職に向け、お子さま自身で決めることも多くなります。

自立して生活していくため、お子さま自身が自分の特性を理解し、特性に応じたコミュニケーション方法を身に付けるなどとともに、様々な場面で自ら支援要請できるようになることは、大変重要です。

(中学校までの支援の状況などを進学先に適切に引き継ぎ、高校段階での授業における配慮や工夫などにつなげることが大切です。)

公立中学校や、都立中高一貫校へ進学される方へ これまでの支援の情報などを共有することも大切です。

中学校では、ほとんどの授業を担当が指導していた小学校とは異なり、教科担任制により様々な教員が授業を行います。そのため、授業における配慮などお子さまへの支援に関する情報の共有が重要になります。



《支援に関する情報を、進学先に効果的にお伝えいただくために》

- ✓ 小学校や中学校などから卒業時に渡される、「学校生活支援シート（個別的教育支援計画）」などの支援に関する情報について、ご家庭での状況と合わせて進学先の都立高校などに提出いただきご相談ください。
- ✓ 卒業する学校と進学先の学校とで、直接、支援に関する情報を共有することも効果的です。ご家庭でもこうしたことにご理解いただき、学校間で情報共有してもよい旨を、在籍している学校や進学先の学校にお伝えください。

Q1 情報を進学先の都立高校に提供すると、何か支援や配慮を受けられるのでしょうか。

一例として、学習障害で読み書きに困難のある生徒に対し、イラストなどを活用した授業を行うことや、場面緘黙のある生徒に対し、授業中に口頭での回答を求めないなどの配慮などが考えられます。お子さまの状況や願いなどに合わせ、支援や配慮の内容を検討します。

Q2 子供が学校になじめていないと日ごろから感じています。相談を受けてもらえるでしょうか。

過去の支援や資料の有無に関わらず心配なことがございましたら進学先の都立高校にご相談ください。ご相談を受けた後、お子さまに学習上や生活上の困難があると考えられる場合には、学校として、困難の改善に向けた方策を検討し、学校で実施可能な支援や授業での工夫などにつなげていきます。

Q3 これまで特別支援教室で指導を受けていました。進学後も通級による指導を受けたいのですが。

高校入学後は環境が大きく変わることから、生徒の学校での状況や困難さの実態を改めて把握し、通級を含めた支援の在り方を検討します。通級による指導が必要と判定されても、申し込みから指導開始まで数カ月以上かかる場合があります。早期に指導を開始するためにも、進学先の高校へ早めにご相談ください。

Q4 学校に相談し支援を受けることになった場合、成績に影響することはありますか。

支援を受けること自体で、成績や進路指導にマイナスの影響が生じることはありません。むしろ、効果的な支援や配慮を得ることで学びやすくなり、成績に良い影響が出てくるのが期待できます。また、卒業後の生活への安心感も高まると考えます。

Q5 学校生活支援シート（個別的教育支援計画）がありません。どうしたらいいですか。

進学先の学校と支援内容の情報を共有してほしい、進学先でも引き続き支援してほしい、というご希望を卒業する学校、進学先の学校の双方にお伝えください。学校間で情報共有と引継ぎを行い、これまでの支援内容を踏まえて、高校で実施可能な支援や授業での工夫などを検討します。

Q6 進学先にこれまで支援を受けていたことを知られたくありません。

学校生活支援シート（個別的教育支援計画）の提供や情報の共有は任意ですが、お子さまの成長の過程で、新たに困難な状況が生じることがあります。そうした場合における支援等に役立てるためにも、お子さまともご相談の上、進学先に情報を提供されることをご検討ください。



生徒への支援の一例を紹介します。

提出物を忘れがちな生徒への支援例

生徒Aさんは、提出期限を聞いても様々なところにメモするため、分からなくなってしまう。クラス担任は教科担任と協力し、日々の提出物や課題などを、教室のカレンダーに書き加えることとし、カレンダーを見れば全て分かるよう工夫しました。担任は生徒Aさんと相談し、帰りに必ずこれを携帯電話で写真に撮るとともに、自分のスケジュール帳にも書き写し、帰ってから保護者に定期的に見せるというルールを設け、徹底するようにしました。結果として課題などの提出物を忘れることが減りました。保護者とは、自宅での確認をお願いするなどの連携を図るとともに、学校での支援の情報も面談などの場を通じて共有しています。

人前で声を出しにくい生徒への支援例

生徒Bさんは、家庭では話すことができますが、教室では声を出すことができません。そこで学校は、授業でグループワークを行う際などに、生徒Bさんが、ICT機器に意見を書き込み、他の生徒が見られるようにする場面を設定しています。また、クラスの生徒にも理解を促し、発表の際などに、別の生徒が代読することなどにより、生徒Bさんの意見や思いを他の生徒と共有できるようにしています。周りの生徒たちも生徒Bさんの心情を理解し、ICT機器も活用するなど、工夫しながらコミュニケーションを図っています。生徒Bさんも安心感が高まり、少しずつ言葉が出せるようになるなどの変化も見られています。



この会で、敢えてみなさんと考えたいこと

- ▶ 学校ってなんなんだろう
- ▶ 高校って、行かないといけないもんなんだろうか
- ▶ 高校って、「いま」行かないといけないもんなんだろうか
- ▶ 誰が高校に行きたい(行かせたい)んだろうか
- ▶ 「不登校」を通して変わらないといけないのは誰なんだろう

進路選択にあたって

- ▶ 何を身につけたいか（勉強？技術？資格？）
- ▶ しっかりと「本人が」希望できる進路か
- ▶ 高校以外にも様々な選択肢
 - ▶ 特別支援学校（就業技術科、職能開発科、普通科）
 - ▶ 高等専修学校（専修学校高等課程）
 - ▶ 各種学校、職業能力開発センター、就労、高卒認定試験

ご清聴ありがとうございました

